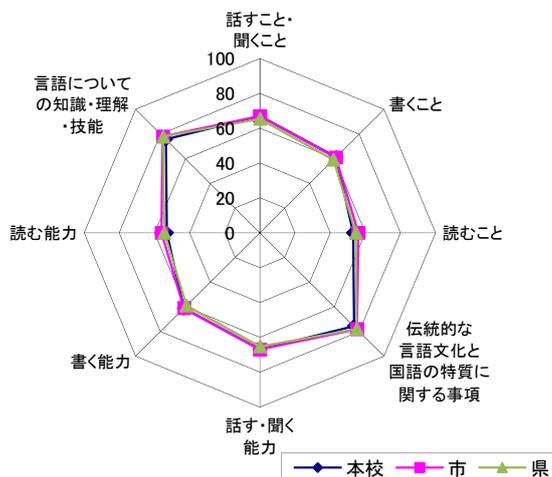


宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと | 67.0 | 67.0 | 65.3 |
| | 書くこと | 61.3 | 61.1 | 59.2 |
| | 読むこと | 53.0 | 56.0 | 54.5 |
| | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 75.7 | 78.2 | 78.0 |
| 観点 | 話す・聞く能力 | 67.0 | 67.0 | 65.3 |
| | 書く能力 | 61.3 | 61.1 | 59.2 |
| | 読む能力 | 53.0 | 56.0 | 54.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 75.7 | 78.2 | 78.0 |



★指導の工夫と改善

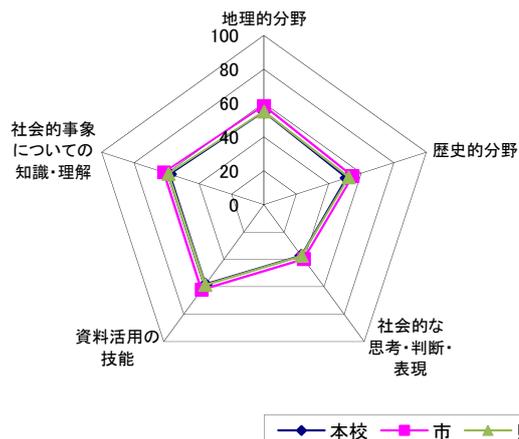
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------------|--|--|
| 話すこと・聞くこと | <p>平均正答率は市とほぼ同じで、県より上回る。</p> <p>○話し合いを進める工夫についての設問は、正答率が9割と理解をしている。</p> <p>●自分の考えとの共通点と相違点を整理して聞く設問は、正答率が4割と低い。</p> | <p>授業の中で様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れる。特にグループでの話し合い活動を通して、意見交換をしながら、自分の考えとの共通点と相違点を整理して聞く力を伸ばす。</p> |
| 書くこと | <p>平均正答率は市とほぼ同じで、県より上回る。</p> <p>○目的に応じて推敲する力は身につけている。</p> <p>●文章の書き方の工夫についての設問は、正答率が15%と低く、記述式のため、無答率が高い。</p> | <p>書くことへの抵抗を除くため、授業の中で文章を書く機会を多く設定する。特に苦手な生徒には、短文作りや、パターンを提示するなどの訓練をし、長文がしっかり書ける力の育成を目指す。また、日常でも、目的や相手に応じた文章を書くことを意識させる。</p> |
| 読むこと | <p>平均正答率は市と比べやや低い。</p> <p>○登場人物の心情を読み取る設問は、正答率が87%と高い。</p> <p>●説明的文章では、要旨を記述する設問の正答率が低く、文学的文章では、作品の表現の特徴を捉える設問や、場面の展開や描写を基に、登場人物の人物像を把握する設問に対する正答率が低い。</p> | <p>論理の展開に即して内容を読み取るために、段落ごとの要点をまとめる活動を多く取り入れる。また、読み取る基礎となる語彙力を高めさせるため、辞書の活用を習慣化させていきたい。</p> <p>読書の習慣をつける活動を継続する。また、良書に触れさせるために、本の選び方にも言及したい。</p> |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | <p>平均正答率は市、県と比べやや低い。</p> <p>○歴史的仮名遣いに関する設問は、正答率が87%と高い。</p> <p>●漢字の読み書きに関する設問は、上位の正答率と下位の正答率に大きな差が見られる。</p> | <p>授業の中で漢字の小テストを定期的実施したり、新出漢字や難読漢字の指導をしたり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしていく。小テストで間違えた漢字の復習など、宿題等も含め、生徒自らが家庭でも継続して漢字の学習に取り組む姿勢を育成していく。</p> |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 地理的分野 | 54.9 | 58.4 | 55.0 |
| | 歴史的分野 | 51.0 | 54.6 | 52.2 |
| | 社会的な思考・判断・表現 | 37.3 | 39.8 | 37.5 |
| | 資料活用 of 技能 | 58.4 | 62.3 | 58.7 |
| | 社会的な事象についての知識・理解 | 58.2 | 61.7 | 59.0 |



★指導の工夫と改善

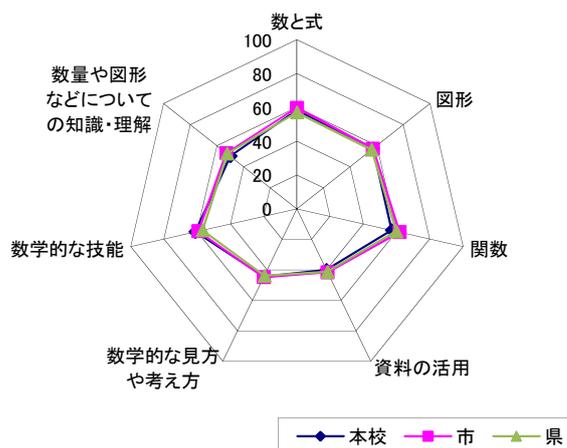
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|---|---|
| 地理的分野 | <ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は県平均とほぼ同じである。 ●市の平均に比べると、平均正答率がやや低い。 ・「思考・判断・表現」「資料活用 of 技能」「知識・理解」ともに県平均とほぼ同じである。 ●「資料活用 of 技能」「知識・理解」は、市の平均よりも低い。 ○「世界の地域構成」の正答率は、県平均を上回る結果である。 ●「世界の諸地域」のうち、アフリカに関する設問の正答率が低い。 ●出題形式では、選択式が県平均と同じ程度であるが、短答式や記述式では正答率が低い傾向がある。 ●複数の資料からアメリカの農業の特徴を考察する問題では無回答率が高い傾向がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理的に離れていたたり、自分たちの生活との関わりをイメージできなかつたりする地域の理解が、言葉での理解にとどまる傾向が見られる。したがって、自分たちの生活と比較しながら、共通性や相違性を見出し、それを裏付ける、地形や気候といった諸地域の環境や地理的要因と結びつけて理解を深める学習活動に力を入れる必要がある。 ・学習のまとめとして、学習したことをフル活用してレポートにまとめる活動などを重視していきたい。 ・普段の授業において、知識の習得にとどまることなく、資料を活用して地域の特色を読み取る活動や「なぜ？」と考察する学習活動を系統的に取り入れて展開することが大切である。 |
| 歴史的分野 | <ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は県平均、市平均と比べ、ともに下回る結果である。 ○縄文時代～古墳時代までの古代社会の基礎の正答率は県平均を上回っている。 ●勘合貿易について、短答式で答える設問の正答率が大幅に低い結果が出ている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象への理解が表面的であり、知識相互の関連が図られていない。「いつ、何がおこったのか？(だれが)」といった史実に対する理解を深め、時代背景、その要因に迫る考察や解釈を日頃の授業で実践していくことが大切である。 ・学習のねらいや学習課題に対して、ふり返りの時間を設けることにより、学習内容の定着を促進していきたい。 ・学習内容の知識・理解をもとに、時代の特色を考察し、説明する能力を育成する必要がある。単元のまとめとして、時代の特色をまとめて説明する場面をできるだけ多く取り入れたい。 |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-------------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と式 | 58.3 | 59.8 | 57.0 |
| | 図形 | 57.1 | 57.1 | 56.1 |
| | 関数 | 57.1 | 61.8 | 59.8 |
| | 資料の活用 | 40.0 | 41.6 | 41.4 |
| 観点 | 数学的な見方や考え方 | 44.4 | 44.9 | 43.9 |
| | 数学的な技能 | 61.1 | 59.4 | 56.8 |
| | 数量や図形などについての知識・理解 | 50.0 | 53.0 | 52.3 |



★指導の工夫と改善

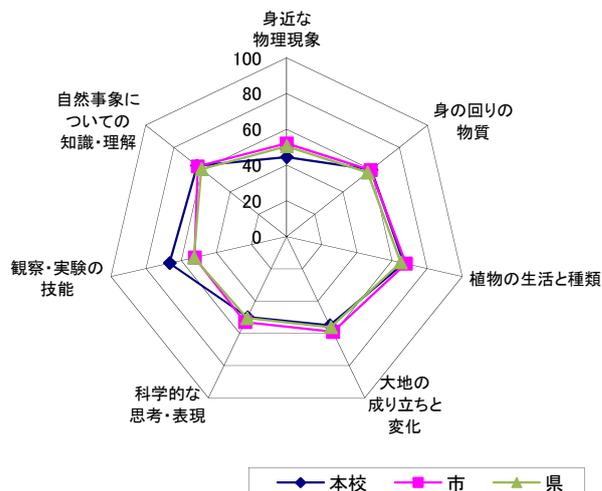
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|--|
| 数と式 | ○質問を読んで1次方程式の立式をする問題では、県を上回っている。 ●1次式の計算や1次方程式を解く問題が、県より6ポイント程下回っている。 | 1次方程式をつくることができても、方程式自体を解けない生徒もいるのではないかとと思われるので、解き方について授業で細かく指導し、問題を解くことで身につけさせたい。 |
| 図形 | ○三角形の移動についての記述や、質問の意味を読み取って作図をする問題では、県より上回っている。 | 図形においては、比較的苦手意識は少ないようである。少しレベルの高い問題も提示しながら、引き続き伸ばしていきたい。 |
| 関数 | ●比例の関係を式で表したり、グラフにしたり、反比例のグラフを選ぶ問題では、県よりかなり下回っている。 ○距離・速さ・時間を表すグラフの読み取りで、記述式のもの、県よりかなり上回っている。 | 距離・速さ・時間などを表すグラフを漠然と読み取ることはできても、具体的にグラフをかいたり、グラフを式に表すことが身につけていないようである。グラフのかき方など技能的なところを指導していきたい。 |
| 資料の活用 | ○おおむね県と同レベルである。 ●相対度数を求める問題は、県より低い。 | 全体的には県と同レベルであるが、相対度数を求める問題の解答率が極端に悪く、無解答率も高い。また上位層グループの解答率も低く、全体的に相対度数の求め方を理解していないようである。授業で確認する必要があると思われる。 |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 身近な物理現象 | 44.4 | 52.1 | 50.5 |
| | 身の回りの物質 | 60.0 | 59.6 | 57.4 |
| | 植物の生活と種類 | 66.7 | 67.8 | 64.9 |
| | 大地の成り立ちと変化 | 55.0 | 59.1 | 56.3 |
| 観点 | 科学的な思考・表現 | 50.0 | 53.1 | 50.6 |
| | 観察・実験の技能 | 66.7 | 52.4 | 52.7 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 63.6 | 63.1 | 60.5 |



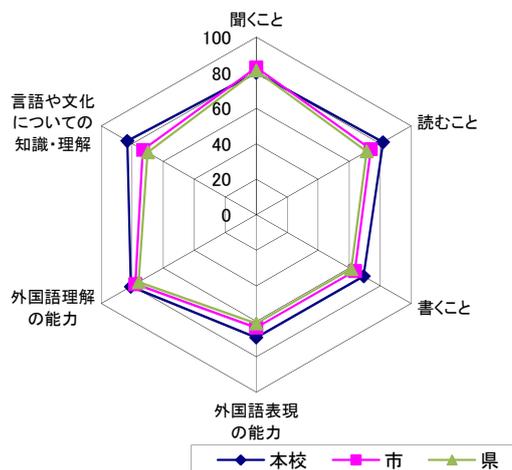
★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|------------|---|--|
| 身近な物理現象 | <ul style="list-style-type: none"> ●本単元は市と比べ、約8ポイント低くなっている。 ○音についてはよく理解しており、特に波形と音の高さ大きさについては8%上回っている。 ●力や圧力についての理解が不足している。 | <p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>力や圧力についての実験を目的意識を持って活動させ、グループでの話し合い活動を通して理解を深化させ、定着を図る等の工夫をした指導が必要と考える。</p> |
| 身の回りの物質 | <ul style="list-style-type: none"> ○本単元は市と比べて0.4ポイント上回っている。 ○密度に関する実験器具の取り扱いや密度の求め方、密度を利用したの物質の分類等理解・活用までできている。 ●溶解のモデル化や溶解度に関しては市と比較するとやや理解不足の感がある。 | <p>目に見えない事象に対し、モデル化やイメージ化は必要な手法であるが見えないものに対する抵抗感がある。事象とモデルがうまくみあうよう視覚化の工夫をしていく必要がある。</p> |
| 植物の生活と種類 | <ul style="list-style-type: none"> 本単元は市とほぼ同程度の理解を示している。 ○個々の植物のつくりやこう合成のしくみはよく理解している。 ●対照実験の意味や方法についての理解があいまいなようである。 ●胞子で増える植物について理解不足の生徒がいる。 | <p>対照実験のセットの仕方やその実験から何が分かるのかを実験を通して考えさせ、グループで話し合っ解決策を見出す等体験と思考を繰り返させる、思考力の向上を目指したい。</p> |
| 大地の成り立ちと変化 | <ul style="list-style-type: none"> ●本単元は市よりやや低くなっている。 ○溶岩の性質と火山の形、火成岩についてはよく理解している。 ●地震の規模や震度については理解しているものの、地震の記録から震央の位置を推測する思考を伴う問題はやや低くなっている。 ●地層の様子から堆積順や海の深さの変化の推測は低くなっている。 | <p>データや図を基に推測する力が弱いので、練習問題等を繰り返させることで思考の順をしっかりと身に着けさせたい。</p> |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|-----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 聞くこと | 80.0 | 82.9 | 81.2 |
| | 読むこと | 81.8 | 73.9 | 71.2 |
| | 書くこと | 69.2 | 63.6 | 61.2 |
| 観点 | 外国語表現の能力 | 69.2 | 63.6 | 61.2 |
| | 外国語理解の能力 | 81.0 | 78.1 | 75.9 |
| | 言語や文化についての知識・理解 | 83.3 | 73.2 | 70.1 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|-------|--|---|
| 聞くこと | ●平均正答率が、市・県と比べて若干低い結果となった。基本的な単語を聞いて答える問題とまとめた英文を聞いて、答える問題でつまずきが多く見られた。 | ・授業の最初に行うウォームアップ時に、簡単な日常会話のやりとりを通して、英語で聞き取ることに慣れ親しみ、正確に聞き取る訓練をしていく。また、生徒同士でも簡単な英語を用いてやりとりできるように日々の授業で行っていく。 |
| 読むこと | ○平均生徒率が、市と比べて高い結果となった。特に、対話文を読んで、文脈を理解し適当に英文を当てはめる問題の生徒率が非常に高かった。日頃の長文の読み取り練習が成果につながった。 | ・今後も、教科書の本文の意味を理解しているかどうかの確認をQ&Aなどで継続して行う。また、英語で読む機会を多く作り、教科書に出てくる役を実際に演じながら読むことで、楽しく活動ができるように工夫する。 |
| 書くこと | ○平均生徒率が、市と比べて高い結果となった。特に、対話文に当てはめる疑問文を作る問題の正答率が県に比べ10ポイント以上も高かった。 ●3文以上のまとまりのある英文を書いたり、テーマに沿った説明文を書く問題の正答率が県に比べて若干低い結果となった。 | ・昨年度から行っている書く活動を今年度も継続して取り入れ、日頃からまとまりのある英文を書く訓練をしていくことで、英語で書くことに対する苦手意識をなくしていく。 ・また、簡単な日常会話を実際に英語で書いてみながら、自己表現の能力を養っていきたい。 |
| | | |

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校生徒は「早寝早起き」「好き嫌いなしの食事」「学習をしていて面白いと思う」「宿題はやりたくなる内容だ」「学習して身につけたことは将来きっと役に立つ」「学校の宿題はきっと自分のためになる」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。」などの質問に対して県の平均を10%近く上回る、好ましい意識のありようを示している。この前向きさ・指導に対する素直さは、ぜひ継続させたい本校の伝統である。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけでクラスのみまりなどを決めていくと思う。」などの質問に対して県の平均を10%近く上回っている。昨年、本校が学習指導の重点として取り組んだ「言語活動の充実を意識した授業」「アクティブラーニング的な授業展開」の成果が現れたと考えられる。

●意識調査の結果、県との数値の開きが大きく劣るものとして、「先生は学習についてほめてくれる。」がある。また、本校生徒は「自己有能感」「学習継続力」の2点でA群とD群の差が大きい。これはC・D群の、いわゆる「学習について遅れがちな生徒」に対して、モチベーションを持続させるための働きかけが不足がちであると考えられる。授業における学習過程にスモールステップの段階を組み、こまめに達成感や充実感を与えるような「ほめる」指導が望まれる。また、同様に特徴的にA群～D群の差が大きい質問として、「授業で自分の考えを文章にまとめるのは難しい」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」がある。これらに対しては、この4月より「10分間意見文」という学習指導部の取組が進行中であるので、12月の定着度調査などでの効果測定を待って次の対策を考えたい。

●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」「家で、学校の授業の予習をしている。」が低い。見通しを持って学習を進められるような援助を考えることが有効であろう。

●「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか。」という質問について、検査の行われたすべての教科において県レベルより大幅に低い数値であった。要するに問題を解くのが遅いのである。この問題の原因と対策については、読むスピードや考える手順性の問題を含め、今後丁寧な考察を要する。